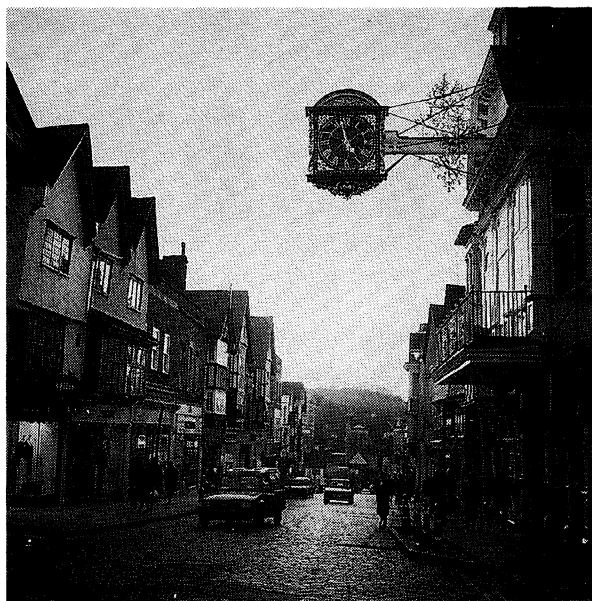


イギリス・ギルドフォード市における 第 38 回 IUPAC 総会

表題の総会が 1995 年 8 月 4 日から 11 日にかけて開催された。IUPAC は International Union of Pure and Applied Chemistry (国際純正・応用化学連合) の略称である。これは化学の世界の国連である。ただし創立 1919 年であるから、国連より歴史が古い。同様の組織として生物には IUPAB, 物理には IUPAP がある。国連と同じように我々の日常とは縁遠い存在と思われるかもしれないが、SI 単位の普及につとめている機関だといえは思い出されるだろう。国連と同じように強固な組織としてできあがっている。物理化学部門, 無機化学部門, 有機化学部門..., と 7 部門からなり、各部門は幾つか (3 から 9) の委員会で構成される。物理化学部門では、記号単位委員会, 熱力学委員会, 電気化学委員会... である。参加資格にも国連と同じようにレベルがあり、正委員, 準委員, 国家代表と区別される。国家代表は国を代表するには違いないのだが、英語で national representative という方が実際の感じがよく表すだろう。来年大阪で化学熱力学国際会議が開催され、それが IUPAC のスポンサーのもとに行われるので、その準備状況を説明するのが今回の目的の一つであった。期日, 会場, セッション, 登録費, ホテル, 参加費補助, 日本の物価, 航空運賃, 食物, 習慣などの説明はしごたえのある経験であった。聴かされる側でも大変であっただろう。この種の会合での話は学会で研究



ギルドフォード市街

結果を報告するのとは異なる語学体験である。たとえば、会期中に熱力学委員会と電気化学委員会の合同会議があったが、両委員会で電気化学ポテンシャルの定義に関して一致できない点があり、それについての両委員会メンバーの議論は大変闘争的（「その問題はとくに昔にケリが付いている…」等など）であった。しかしその一方で有用な基本的実験データを黙々と出し、コンパイルするという作業もこの委員会のもとで行われている。これまで化学や物理はヨーロッパ、アメリカを中心に「運営」されてきた。来年（1996）の国際学会を契機として、熱測定分野でも様々なかたちでアジアを含めての国際交流が一段と進むであろう。

（松尾隆祐 記）